

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

平成21年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号

平成21年8月18日
島根県

- 1 病害虫名 : ミカントゲコナジラミ *Aleurocanthus spiniferus* (Quaintance)
2 発生物種 : チャ
3 発生確認場所 : 邑智郡美郷町
4 発生確認の経緯

- 1) 平成21年6月邑智郡美郷町のチャ園において、葉裏に本種幼虫と思われる害虫が発生しているとの報告を受けた。久留米大学上宮健吉博士に同定依頼したところ、チャに寄生するミカントゲコナジラミと同定された。
2) 本種は、平成16年に京都府で初めて発生が確認され、その後、滋賀県、奈良県、三重県で確認されている。

5 形態及び生態

成虫の体長は約1.3mm、雄は雌よりやや小型で、前翅は紫褐色の不整形の白紋がある。体表面が白粉で覆われているため灰色に見える。卵は長さ0.2mmの曲玉状で短い柄がある。ふ化幼虫は淡黄色で定着すると光沢のある黒色となる。3齢を経て蛹化する。蛹殻は長さ1mm、光沢ある黒色で周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する。

チャでの発生は年3～4回で3齢幼虫や蛹で越冬すると考えられている。成虫の発生期は越冬世代が5月中旬、第一世代が7月上旬、第二世代が8月中旬、第三世代が10月中下旬とされている。成虫の寿命は4日短く新葉の葉裏に産卵することが多くふ化幼虫は分散せず群生することが多い。

6 被害の特徴

成虫及び幼虫による葉の吸汁加害と、幼虫・蛹の分泌物により夏季以降にすす病が併発し被害が発生する。また、一番茶摘採期と成虫の発生時期が重なると収穫作業者が吸引するなどして不快害虫としての一面も見られる。

7 寄主植物

本種的主要寄主植物はカンキツ類とされているが、チャに寄生するものは、京都府、滋賀県、奈良県、三重県以外では報告されていない。なお、海外では中国及び台湾において記載されている。

8 防除対策

1) 本種の卵および若齢幼虫は微少であり、また葉裏に産卵・寄生するため発見が遅れ、成虫やすず病が発生するまで気が付かないことが多い。そのため定期的に茶園を観察し早期発見に努める。

2) 茶園の風通しを良くし卵・幼虫・蛹の寄生葉除去に努める。

3) 本種は卵から蛹までの期間は葉裏で固着生活することから整せん枝の時期や深さを工夫することで効果的に寄生葉を除去し次世代密度の抑制を図る。また、除去後の寄生葉は焼却もしくは土中に埋めるなど適切に処分する。

4) 放任茶園は本種の発生源になる可能性が高いので適切な管理を行い、発生拡大を抑える。

5) 薬剤で防除する場合は若齢幼虫発生期に散布する。

農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	成分の総使用回数
アブロード水和剤	1000倍	摘採14日前まで	2回	ブプロフェジン2回
アブロードエースフロアブル	1000倍	摘採14日前まで	1回	フェンピロキシメート1回 ブプロフェジン2回
ハチハチフロアブル	1000倍	摘採14日前まで	1回	トルフェンピラド1回
ダニゲッターフロアブル	2000倍	摘採7日前まで	1回	スピロメシフェン1回

6) 発生地から苗を購入する場合は、寄生の有無に注意する。



ミカントゲコナジラミ幼虫



ミカントゲコナジラミによる被害